

August Official Hand Book



AUGUST

オーガスト オフィシャル小冊子 2021年春号

- 『あいミス』ショートストーリー 月明かりに浮かぶ妻
- 公式サイトにて大好評連載中!
- 出張版『あいミス』4コマ漫画
- メインストーリー13章公開 あいりすミステリア! ~少女のつむぐ夢の秘跡~
- べっかんこう × 梶原拓
- スタッフ対談

はじめに INTRODUCTION

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。

何度目かの皆様、いつもご愛顧いただきありがとうございます。

『あいりすミステリア!』は2021年1月31日に、正式サービス開始から2周年を迎えることができました。長く遊んでいただけるゲームを作るのは難しい中、本作が2年を超えて続けていることは本当にありがたいことです。本編の新章も公開し、また期間限定イベントも開催しております。そしてつい先日は新キャラクター「フリッカ」が《アイリス》に加入しました。今後も充実を図ってまいりますので、『あいミス』を引き続きよろしく願いたします。

そして、昨年の『夜明け前より瑠璃色な』15周年に合わせ、2014年に休刊した「電撃HIME」がまさかの復活! ということで、フィーナの抱き枕カバーがついた「電撃HIME Festival! 『夜明け前より瑠璃色な』15周年記念特別号」も発売されました。コトブキヤさんからは、今夏にフィーナのフィギュアが発売されることとなっております。

あちこちで書いていますが、作品やキャラクターを長く愛していただけるのは、制作者として本当に本当に嬉しいことです。今後も、そういう物語、キャラクター、世界を生み出せるよう精進していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、多少のお時間を拝借いたしますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみください。

2021年3月 オーガスト/ARIAスタッフ一同



AUGUST OFFICIAL HANDBOOK 2021 SPRING オーガストオフィシャル小冊子 2021年春号

INDEX

『あいりすミステリア!』ショートストーリー 月明かりに浮かぶ麦	3
『あいりすミステリア!』公式サイトで連載中!! 出張版『あいミス』4コマ漫画	8
好評配信中! メインストーリー13章公開! あいりすミステリア!	9
スタッフ対談	10
あとがき	11

あირიすミステイリア！
ショートストーリー

月明かりに浮かぶ麦

8

「うーん、どうしようかなー」

「どうしたの、さつきからうんうん唸って、もしかして悩み事？」

ある日の談話室、椅子に座って唸るプリシラにフリツカが声をかけた。

「ああうん、大したことじゃないんだけど……ちよつとバルヴィンのことを思い出してんだ」

「もしかして、家の食事が恋しくなっちゃったとか？」

「あはは、いわゆるホームシックとはちよつと違うんだ。とりあえず座りなよ」

プリシラが空いている席に視線を送り、フリツカが椅子を引いて腰掛ける。

「この前お姉様とギゼリックと食事をする機会があって、庶民の生活が話題になったんだけど。ボクはあまり詳しくないから、話を聞くだけになっちゃったんだ」

「そういえばギゼリックが前に言ってたよ、国に帰るといつも違う店で飲むって。いろんな店に行って、いろんな人とお酒を飲みたいかららしいけど」

「ギゼリックらしいね。ボクも二人みたいにもつと庶民の生活に詳しくなりたいんだ。だから、今度の休みにバルヴィンに帰って街の視察しようかなって」

「いいね！ ルーージェニアと一緒に帰るの？」

「さすがに二人一緒だと目立つから、お姉様には遠慮してもらおうつもり」

「そっか。じゃあわたしなら一緒に行っても大丈夫かな？ 人間界のこともっと知りたいし、バルヴィンにも行ってみたいから」

「本当に？ 一人で行くって言ったらお姉様に心配されそうだから助かるよ」

「はあつとプリシラの顔に笑みが広がり、フリツカもつられて口元を緩める。

「じゃあボク、ベア先生に外出許可もらってくるよ。また後でね」

「うん！ 楽しみにしてる！」

数日後、無事に外出許可をもらえたプリシラとフリツカはバルヴィン王都に到着した。

「賑やかな街だね。人通りも多いし、みんな生き生きしてる」

「ちよつと麦の収穫の時期だから、街に活気があるんだ」

「それであちこちに屋台があって、小麦が焼けるいい匂いがあるんだね。お腹空いた〜」

朝ごはんをしっかりと食べたはずのフリツカの視線が、通りを彩る屋台に注がれる。

様々なパンやクッキーが食欲をそそり、フリツカのお腹が盛大な音を立てた。

「うわっ、恥ずかし。聞かなかったことにしてくれる？」

「了解。屋台で何か買って食べる？」

「まだ我慢できるから大丈夫！ 空腹は最高のスパイスっていうし」

「じゃあもう少し歩こうか。いろいろ見てもらいたいものはあるし」

「嬉しいけど、プリシラの視察はいいの？ 庶民の生活を見たいって言ってたよね」

「街を歩くだけで自然と目に入るから大丈夫だよ。まずはお姉様が作った市場から案内するね」

二人は目抜き通りを真っすぐ歩き、十字路を右に曲がる。すると石造りのひと際大きな建物が現れた。

建物は見るからに堅牢で、白い壁が陽光を反射している。

正面に設けられた大きな出入口から民が入りしており、皆一様にたくさんの食材を抱えていた。

「ここがバルヴィン中央市場。バルヴィン産の食べ物なら、なんでも手に入るよ」

「白くて清潔感のある建物だね。なんでこんなに大きいのか？」

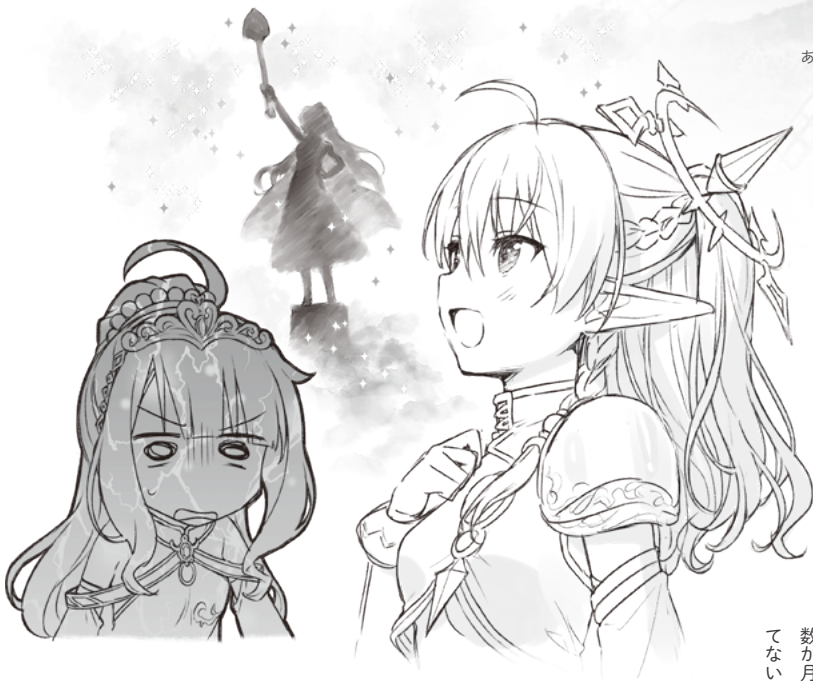
「今までは食べ物の種類別に市場が分かれてたんだけど、買い物がしづらいつて不評だったんだ。だからお姉様が一つの大きな市場にまとめさせたんだ」

「買い物が一か所で終われば便利だよ。ルーージェニア、ナイスアイデア！」

「うん！ 自慢のお姉様だからね、えっへん」
プリシラが腰に手を当てて、むふーと息を吐く。

「他にもお姉様が作ったものがあるんだ。こつちに来てよ」

プリシラは笑顔でフリツカの手を掴み、城下を流れる大きな川の土手へ連れてきた。
土手には何本もの大樹が植えられ、樹下で



は庶民が思い思いにくつろいでいる。
「この川は流れが急で、たびたび氾濫を起こしてきた。でもお姉様が先頭に立って流れを変え、工事をして、今じゃ穏やかな川になったんだよ」

「川の流れを変える……って《天上人》じゃないのに、そんなことできるの?」

「できないことはないけど、この川は特に工事が難しく、何度も失敗してきたから、みんなできないって思ってた。でもお姉様が『やってみなければわかりませんわ!』って一人で川の周りを掘り始めたんだ」

「なんとなく、その時のこと想像できるね。周りの人も慌てたんじゃない?」

「もちろん大慌てさ。姫がそんなことしなくていいって、みんな止めた。でも、お姉様は一人でもやり遂げるって三日も掘り続けた。そうしたら『姉様だけに頑張らせるわけにはいかない』って、大勢の庶民がお姉様を手伝い始めたんだ」

「ルージェニアがみんなに慕われている証拠だね。それでどうなったの?」

「庶民だけでなく兵士も錬金術師もお姉様を手伝って、普通なら何年もかかる工事が数か月が終わったんだ。それ以来氾濫も起きないよ」

「ルージェニアの行動がみんなを動かしたんだ。カッコいいね」

「そんなお姉様の功績を讃えて、この土手はルージェニア堤って呼ばれているんだ」

「ああ、それでルージェニアの像があるんだ」

フリツカが誇らしげに立っている銅像に目を向ける。

スコップを掲げたルージェニアがマントをはためかせながら、農民のような服装で勇ましいポーズを取っていた。

「ああ、あれ……ね。ポーズはいいとしても、服装が……頭にスカーフ巻いて泥で汚れたスカート履いているのは、ちょっと……しかもよくわからないクマのワッペンまで縫い付けてあるし」

言いながら頭が痛くなったのか、プリシラの眉間に皺が寄る。

「マントがなかったら王族ってわからないかもね。一人で掘ってた時のルージェニアを再現してるの?」

「うん、庶民の発案で銅像を作る時に、できるだけリアルに寄せた服装にしたいってお姉様が言ってたね。ボクはせめて服だけでも変えた方がいいって言ったんだけど……」

「いいんじゃない? ルージェニアらしくて。あとカッコいいし」

「かつ……いい? この像が?」

本気で言ってるのかと意外に匂わせながら、プリシラが困惑した顔で銅像とフリツカを交互に見つめる。

「うん、先頭で頑張ってるお姫様って感じがして、わたしは好き」

「そっか、そういう見方もあるか。ありがとうフリツカ、きつとお姉様も喜ぶよ」

「大げさだって、わたしは思ったことを言うだけ」

「それでもさ。今までこの像をみてポジティブなこと言った人、お姉様しかいなかったから……」

「ふーん。まあわたしのセンス、ちょっと人間とは違うからね。でも元《天上人》のお墨付きなんだから、プリシラも胸張っていいと思うよ」

フリツカはプリシラを励ますように、軽くプリシラの肩を叩く。

そして何かに気付いたように、フリツカが辺りを見回した。

「ところで、プリシラの功績は残ってない

の？」

「ボクのやったことは地味だから、わざわざ紹介しなくてもいいかなって」

「えー気になるよ、教えて教えて！」

「いいけど……ホントに地味だから観光向きじゃないよ？」

そう言いながら二人は川べりから、街外れの農地へ移動する。

「うわく金色の海みたい」

ルーゼニア堤から数十分歩くと、風に揺れる稲穂の波がフリツカたちを出迎えた。

麦の合間を農民たちがせわしなく動き、刈り取った麦束を集めては荷車に積んでいく。

「見渡す限りの小麦畑だね。これ、全部パルヴィンの人たちが開拓したの？」

「うん。先祖代々、何年もかけてね。これから生まれてくる未来の国民のために、今も開拓は続いているんだ」

「開拓しなくたって、今の農地を使えばいいんじゃないの？」

「いつ今の農地が使えなくなるか、わからないんだ。帝国との戦争では農地が戦場になっちゃったし、小麦の病気も流行るかもしれない。だから開拓した土地からは三年間税を取らないと約束して、農民に離れたところを開拓してもらうこともあるよ」

「国のこれから先を考えているんだね。顔も知らない子孫のために、今の人が頑張る……人間ってすごいね」

元《天上人》のフリツカが、どこか羨ましそうな目で農民を眺める。

その横顔をみて、プリシラがハツとする。

「そっか、《天上人》には子供がいないから子孫もないのね」

「うん、《天上人》は一人ひとりが完成した存在で、不老不死だから。もし《天上人》が子供作れたら、今度は増えすぎて大変なことになっちゃう」

「人間は寿命があるけど子供が作れる。どっちもどっちだね」

「わたしは人間の方がいいと思うけどな。命に限りがあるからこそ、今を頑張れるんだと思うし」

「ボクは《天上人》の方がすごいと思うけど……ま、隣の芝生は青く見えるってやつかもね」

「うんうん、そういうことそういうこと」

話が一段落した二人は、再び正面の麦畑に目を転じる。

広大な畑の端から麦が収穫されるが、まだ全体の半分も終わっていないようだ。

「そういうえば、プリシラの功績ってどれ？もしかして開拓を手伝ったとか？」

「モヤシに肉體労働は無理だよ。この辺りにはあるはずだけど……ほら、あれ」

プリシラが指差した畑では、ソリの付いた箱が真つすぐ麦に向かって動いていた。

箱の正面には大きな口が開いており、吸い込まれるように麦が箱の中に取られる。

そして左右から収穫が終わった麦が小さな束になって排出され、子供が楽しそうに束を抱えて荷車に積み重ねた。

「あの箱、魔術によって動く小麦の自動収穫機なんだ。手作業の三倍の速さで収穫から束

作りまで終わられるよ」

「へー人間ってホント面白いこと考えるね、プリシラが作ったの？」

「いや、道具自体は元々あったんだけど、魔術がかかった農具って高価だから普通の農民は買えなかったんだ」

「えー、せっかくあるのに使えないなんてもったいないね」

「うん。だから国がまとめて買ってあげて、必要な農家にレンタルするようにしたんだ。返してもらったら次の収穫までの間に国がメンテナンスしておくってわけ」



「もしかして、その仕組みを作ったのがプリシラ?」

「うんまあ、そう……なんだけど……」

喋りながらプリシラの声がだんだん小さくなり、恥ずかしそうに頬をかき始めた。

「あはは、やっぱり地味だね。お姉様みたいに目に見える物を作ったわけじゃないし、ボクは指示しただけだから」

「全然地味じゃないって。プリシラが考えつかなかつたら、農民は苦労したままだつたんでしょ? だからプリシラがやったことはすごいよ」

「そ、そうかな……確かに小麦の生産量は上がったって聞くけど」

「小麦があればパンも作れるしケーキも作れる。わたしみたいに食いしん坊な人から見たら、プリシラは神様みたいなものだよ。ありがたやありがたや」

フリツカがプリシラに恭しく礼をする。

そんなフリツカを怪訝そうに見ていた農民が、プリシラの顔を見て目を丸くした。

「もしかして……プリシラ様、ですか?」

「えっ、あっ……」

農民に話しかけられた瞬間、プリシラが硬直する。

「おおっ、やっぱりプリシラ様だ! みんなー! プリシラ様が来てくださったぞー!」

「あら本当! プリシラ様、今日ほどのようなご用件で?」

「えっ、あ、いや、そのっ」

「プリシラ様、サインください!」

「妹姫様……こっち見て〜」

「あ、あの、ちょっと待ってくれませんか」

たちまちに農民が集まり、プリシラを中心とした人の輪ができる。

さすがに農民たちも王族に失礼のないようにと多少の距離は取っているの、揉みくちやにされることはない。

しかし人の輪はどんどん大きくなり、騒ぎがさらに人を集めて人垣が出来上がってしまった。

「わーお、人気者だねプリシラ」

「みんなボクに会うのを物珍しがってるだけだよ」

謙遜するプリシラに一人の老人が歩み寄る。

「おお……まさか本当にプリシラ様がいらっしやるとは。我々に何か御用がおりでしゅうか?」

「いえ、たまたま立ち寄っただけなんです。すみません、騒ぎになってしまっって」

「いえいえ、皆喜んでおりますよ。我々のような下々の者には、プリシラ様とお話する機会なんてほとんどありませんから」

「下々だなんて思っていないですよ。みなさんが一生懸命に作物を作ってくださるから、パルヴィンは豊かなんです。いつもありがとうございます」

「もつたいないお言葉です。プリシラ様には魔術農具の手配までしていただき、感謝の念に堪えません。是非宴を開かせていただけないでしょうか」

「って言われても……ええとと」

「プリシラ、こういう時は素直にお礼してもらおうよ」

フリツカがプリシラの肩に手を置き、優しく語りかける。

「みんなプリシラに感謝の気持ちを伝えたいから、もてなそうとしてるんだし。断つたら逆に悪いって」

「でも、ボクは王族として当然のことをしただけだよ。お礼してもらうようなことじゃ……」

「わたしも動物から贈り物されることがあるんだ。ほら、わたし動物の創造主だから、動物に好かれやすくて。でもお礼してもらうために動物作ったわけじゃないから、プリシラのくすぐったさはわかるつもりだよ」

フリツカはプリシラと視線を合わせ、丸みを帯びた声で話し続ける。

「わたしは贈り物は必ず受け取って、込められた感謝の気持ちをずっと大事にしていこうと思ってるんだ。こんなに親切にしてもらったんだから、相手にももつと優しくしてあげようってね」

「もつと優しく……難しいなあ。王族として贈り物をくれた人を虜辱はできないよ」

「そこまで難しく考えなくてもいいって。大事なのは気持ちなんだから、お礼の手紙を書くだけでもいいと思うよ。そうやってお互いに感謝の気持ちを送り合えば、もつと優しい世の中になると思うんだ」

「もつと優しい世の中……か。お姉様が目指す、平和な世の中にも近づくな」

「近づくな。だってみんなが優しくなるんだもん」

はつきりと言いつけるフリツカの眩しさに、プリシラは目を細める。

「現実はそのように単純じゃない。けど、まずは自分が動かないと何も変わらないよね」

プリシラはぼつりと呟き、農民に向き直る。
 「皆さんの気持ち、よくわかりました。お言葉に甘えてもよろしいでしょうか？」

「もちろんですとも！ プリシラ様とお付きの方はわたしの家でおくつろぎください。すぐに宴の準備をいたします」

「あの、フリツカはお付きの人じゃなくて仲間です——」

「いいよ、細かいことは。それより、どんな美味しいごはんが食べられるのか楽しみ！ほら、行こう行こう」

プリシラの指摘を避るようにフリツカが明るく声をかける。

プリシラは笑顔で嘆息すると、フリツカと二人でレンガ作りの家に向かった。



「いやー食べた食べた。お腹いっぱい大満足」

「お土産も持ちきれないぐらいもらっただけ……嬉しいんだけど嬉しすぎて申し訳ないね」
 農地を背に、二人が冥界の祠に向けてあぜ道を歩く。

両手には新鮮な野菜や小麦、焼き立てのパンにクッキーなどお土産物が抱えられていた。
 「プリシラ、ずっと恐縮してたもんね。こんなにいっぱいのご馳走、食べきれませんよって」

「だって、お城で食べてたご飯より量多かったから。フリツカが手伝ってくれて助かったよ」

「あのぐらい余裕だよ。野菜は新鮮だし、味付けはちょっと濃い目で食が進むし、さいっ

こくに美味しかった。秘伝のタレも分けてもらったから、ソフイに真似して作ってもらおうかな」

「いいね。きつとお姉様も好きな味付けだと思うから、完成したらおすそ分けしよう」

二人で宴の感想を語りながら、今日一日を懐かしむようにゆつくり歩を進める。

日は既に傾いており、オレンジ色の西日が二人の長い影を作り出した。

「魔術農具のこと、みんな喜んでてよかったね」

「ボクはシステムを作っただけなんだけどね。農具の改善案も聞けたし、後で宮廷魔術師と技術者に相談してみるよ」

「使いやすい農具になれば農民も喜ぶし、すぐに意見を取り入れてくれたって国のことも信頼してくれそうだね」

「フリツカが背中を押してくれたから、農民ともつといい関係が築けそうだよ。ありがとう、フリツカ」

「助けた覚えはないけど、でもどういたしまして。美味しいご飯食べさせてもらったから、それでチャラでいいよ」

「いいや、お礼は改めてするよ。お礼をし合えばみんな笑顔になれる、でしょ？」

「あはは、そうだったね。じゃ、また今度バルヴィンを案内してよ。わたし、もつともつとバルヴィンのこと好きになっちゃった」

「嬉しいね、どの辺りが？」

「みんな明るいし、ご飯は美味しいし、自然は豊かだし。あと王族と庶民が仲いいのが大好き。立場が違っても仲良くなれるって、素敵だよ」

「国民が一致団結しているのが、バルヴィンの良いところだからね。絆の強さは、どんな大国にも負けないつもりだよ」

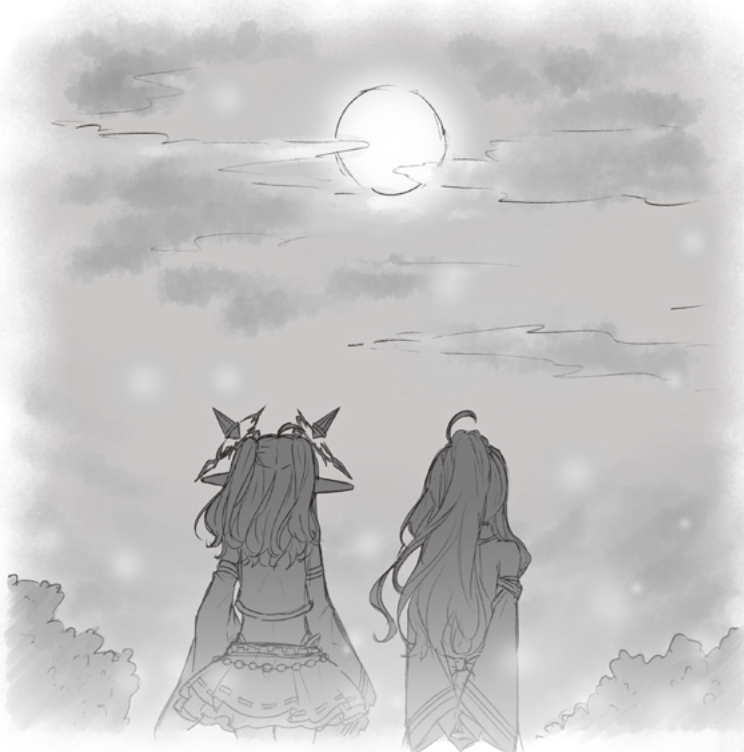
「うんうん、国全体が一つの家族って感じ。すごくほっこりしたよ。また遊びに来たいな」

「いつでも案内するよ。今度はお姉様も誘ってみるね」

話している間にも日は沈み、次第に星々が煌めき始める。

雲一つない夜空に浮かぶ満月が二人の道しるべとなり、麦畑を照らしていた。

おしまい



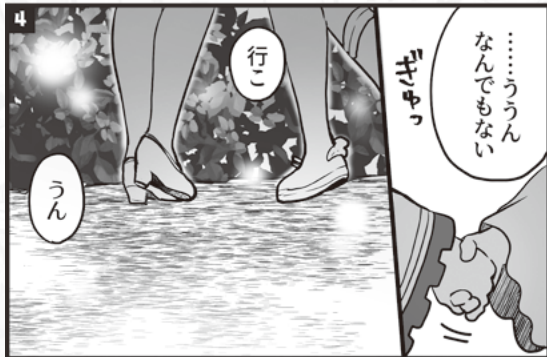
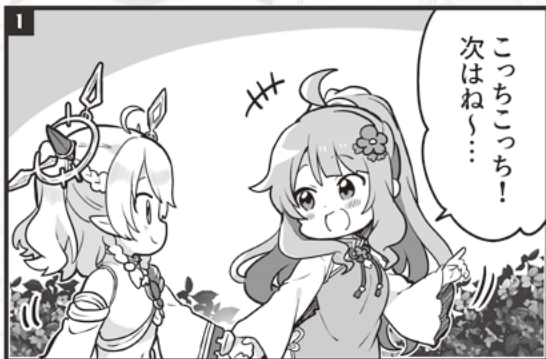
出張版

あいミスミステリア!

4コマ漫画

作・めざし

手。



連載 & 単行本情報

『あいミス4コマ』は、あいミス公式サイトにて連載中です。また、描き下ろしコミックや4コマ漫画を収録した、**単行本第1巻**も電撃コミックスEXより好評発売中です。めざさんの描くアイリスたちの日常をぜひお楽しみください!



連載ページはこちら! >>>

LINEスタンプ好評販売中!

『あいミス4コマ』の印象的なシーンを収録した**LINEスタンプ**第1弾〜第3弾が好評発売中です。普段の会話に彩りを与える、とても可愛らしく使いやすい内容となっております。ぜひご利用ください!



LINEスタンプ特設ページ >>>

NEW MEMBER!

冥王を慕う刻を司る天上人

フリッカ

CV 三代眞子

メインストーリー
13章配信スタート!!

あいらずミステリア!

～少女のつむぐ夢の秘跡～

☆好評稼働中!☆

公式サイトへ
アクセス!



タイトル あいらずミステリア! ～少女のつむぐ夢の秘跡～

プラットフォーム PCブラウザ (DMM GAMESよりログイン) / AndroidOS / iOS

キャラクターデザイン・原画 べっかんこう / 夏野イオ

シナリオ 榊原拓 / 内田ヒロユキ / 安西秀明 / 加賀宮考一

シナリオ協力 瀬尾順 / 砥石大樹 / 御厨みくり / 保住圭 / かずきふみ / 8 / 姫ノ木あく / 詠野万知子

音楽 ActivePlanets

CG着彩 ベペる / ひろた / 巻道 / 弥弛 他

背景美術 ベペる

装飾イラスト 脳みそホエホエ

© 2018 EXNOA LLC / AUGUST / ARIA

榊 さあ、今回も対談の時間がやってきました！
 べ おー！最近のトピックスと言えばフリッカのアイリス化ですね。
 榊 しかも冥王の昔を知る、動物を作った元（天上人）です。親バカ的に動物大好き。
 べ 冥王以外の天上人の登場、アイリス化は意外でした。今後の展開が楽しみです。
 榊 フリッカはベロスも好きなので、アシュリーが喜びそう。
 べ ベロスって動物なんですかね。モンスター？モンスターと動物の差とは……？
 榊 動物が深淵を浴びすぎるとモンスターになります。イノシシ型のヤツとかがそのパターン。そのほかに下級天使やゴレムなど、〈天上人〉や魔術師が作ったモンスターもいて、そいつらは動物とは関係ありません。ベロスは、見た目は動物っぽさもあるので前者のように見えますが、実際は冥界の番犬として冥王が作った存在なので、後者なんです。
 べ 知らなかった……（笑）
 榊 冥界への侵入者をバリムシャア！と食べたりしますよ。
 べ 戦闘形態というか真の姿とかあると良いですね。
 榊 デフォルメされて描かれているので「ベロスかわいいじゃん」と皆さん思っているかもしれませんが、実際は精悍で凶暴な外見をしています。きっと、あれをかわいいといえるのは、アシュリーくらいで。
 べ なるほどー。ちなみに神獣系は動物の派生なんですかね。バクとか。バクは神獣ですよ。
 榊 バクは神獣です。バクや白狼や白亀といった神獣は世界樹が生み出しました。ちなみに精霊も全て世界樹が作り出したので世界樹枠です。世界樹すごい。世界樹枠もアイリスと戦うことができますが、正確にはモンスターというカテゴリではない想定です。
 べ モンスターの絵はいろいろあって描いていて楽しいです。スライムのバリエーションを考えたり。
 榊 モンスター、いろいろいて楽しいですよ。個人的には、ちょっとイラッとする顔のパウワとか好きです。あとはやっぱりスライム。麦穂スライムとか、砂スライムとか。次はなにが生えてるのが楽しみです。
 べ 色々生やしていきたいです。
 榊 ベロスもいつか恐ろしいリアルバージョン描いてあげてください。って、僕らの方でそういうシナリオ書けばいいのか。それともヒロイン化か。
 べ リアルベロスもいつかは非描きたいです。天使が攻めてきたときとかチャンスだった。いつの日かベロスのアイリス化もある？……ってすいぶん逸れましたがフリッカのお話でしたね。フリッカは作画は夏野さん担当なんですけど、デザインは僕もかかわっています。原画チーム渾身

のデザインです。
 榊 フリッカはやっぱ杖と髪飾り的な部分の特徴的ですね。あとは袖もちょっと歯車っぽいモチーフで、これまでにない感じ。あー、でも制服と私服もかわいい。
 べ 私服は夏野さんデザインです。可愛いですよ。
 榊 さて。あと今年は襦袢10周年ですよ。
 べ 今回久々にティアを描きました。やっぱりキャラは覚えているものですね。世界観に引っ張られたのか当時はホント精神的にキツかった思い出ばかりですねえ。その分思い入れもあるんですが。
 榊 シナリオも大変だった思い出ばかりです。
 べ あの子たちにはつらい思いをたくさんさせてしまったので、いつかミラクルハッピーエンドも見てみたいですね。
 榊 うわあ！それはやらんぞ、という固い決意であのエンディング書いて、続編や派生作品もないのに！……でも、あのティアが小麦抱えてる絵は今見てもグッと来るものがあります。
 べ あれはあれで終わってますからね。続編とかは蛇足かなとは思いますが。
 榊 ミラクルハッピーエンドか……どんな感じかなあ。ます誰かが落ちちゃ駄目ですよ。
 べ 確かに。じゃあ初期段階でティアが目覚めて天使パワーで浄化しつつ地上に軟着陸。ティアと未永く幸せ。これでどうでしょう。ついでに兄弟和解も。
 榊 初期でティアがノーヴァス・アイテルを軟着陸させてたら、聖女もいなくなってコレットとラヴィリアはきゃっきやうふふと平和な日々を送れるかな？その他にもあちこち問題は起きそうだけど、リシアはヴァリアス先生にピンバシ教育してもらって。

ルキウスもいろいろ片付けてシスティナとラブラブで。
 べ 良い話だ……（泣）
 榊 エリスはちゃんと自立できるかな。
 べ どうだろう。なんとなく上手くやっていきそうな気はするけど。
 榊 ガウは……ガウは……うーん。あ、ガウってギリギリまで男性っていう設定だったんですよ。
 べ そうですね。懐かしい。ガウは地上に降りたらひとり放浪の旅とかに出てほしいかな。
 榊 なるほど似合いそう。辺境でヒャッハーさんを殺しまくって満足してもらう方向で。フィオネさんはどうなるかな。羽つきもいなくなって羽狩りもいなくなるなら、普通に治安維持のための衛兵隊長とかになればいいか。
 べ 剣を捨てて小料理屋とか始めてもらってもいいですね。
 榊 クーガーってお兄さんが黒羽になってたけど……
 べ 天使パワーで浄化時に元に戻ります。
 榊 ミラクルハッピーならそれしかないな！完璧だ！娯館リリウムも地上でのんびり商売すればいいよ。
 べ でも、そもそも天使パワー使ってる時点で……アレが。
 榊 ミラクルハッピーなんだから宇宙にアレを放り投げろ！あとはカイトとティアが小麦畑を作ればいい！もうそれでヨシ！
 べ よくわからんがヨシ！



おわりに POSTSCRIPT

オフィシャルハンドブックをお読みいただき、ありがとうございました。
お楽しみいただけましたでしょうか。

『あいつすミスティリア!』は、新キャラ「フリッカ」の《アイリス》加入と共に、
本編のストーリーが加速していきます。
盛り沢山の期間限定イベントはもちろん、昨年大変ご好評をいただいた
とあるイベントを今年も行う予定です。今後ご注目いただければ幸いです。

また、今年2021年は『襪翼のユースティア』の発売からちょうど10年となります。
当冊子が配布される予定の、コミックマーケット99では
関連グッズも販売している予定です。
公式BOOTHでも取り扱いますので、ぜひご利用ください。

『襪翼のユースティア』の発売から10年ということは、
東日本大震災からも10年ということになります。
発売日は当初2011年3月25日予定でしたが、震災により4月28日に延期となりました。
マスターアップは済んでいて、地震の数日前に告知を出したところでした。
オーガストでは登録ユーザーの皆様宛てに暑中見舞い/年賀状と
オフィシャルハンドブック等をお送りしているのですが、
2011年の夏は、住所のところに「津波による流失のため」と書かれて
何通も返送されてきてしまったことを思い出します。

暑中見舞いが届かなかった皆様が無事で、
どこかで今もこの冊子を
読んでくださっていることを祈っております。

2021年3月 オーガスト/ARIA スタッフ一同



ユーザー登録 USER ENTRY

ユーザー登録を行っていただいた方へ、本オーガストオフィシャル小冊子や季節のご挨拶を、ご希望にあわせてお送りしております。
そのほか便利なサービスもご用意しておりますので、ぜひご登録をご検討くださいませ。



季節のご挨拶（郵送）

ご住所をご登録（任意）いただくと、
本誌や季節のご挨拶を年数回お届けします。
お届けの際は無地の封筒を使用します。

ご希望の方のみ



メールインフォメーション

最新作情報やオフィシャル通販のご案内など
オーガストからお知らせを年数回メールでお届けいたします。
定期的なメールマガジンではなく、お知らせのみのお届けです。

ご希望の方のみ



オフィシャル小冊子の閲覧

本オーガストオフィシャル小冊子を
PDF形式にてWeb上でご覧いただけます。



製品プロダクトIDの管理・サポート

オーガストの製品のプロダクトIDをご登録いただくと、
困った際のサポートをお受けいただけます。



ご登録はメールアドレスのみで可能です。
※ご本名・ご住所やプロダクトIDは必要ありません。

詳しくはこちらのページをご覧ください
<https://august-soft.com/userentry/>





AUGUST OFFICIAL HANDBOOK
2021 SPRING

オーガストオフィシャル小冊子 2021年春号

企画・制作
...



<https://august-soft.com>



<https://aria-soft.com>

当小冊子の一部のページを撮影し、ブログ・SNS等に転載していただくことは問題ございません
ただし全ページを複製配布することはお控えください

© AUGUST